

洛友会報

日本の技術が崩壊する!?

ーその1、現状の認識ー

副会長 池上文夫（昭22卒）

去る5月1日、NHKテレビの「求む・若き頭脳—工学部研究室の危機!」をご覧になつた方々も多いでしょう。東大とMITとを比較して日本の基礎研究の最先端を担当エリート大学の大学院学生の理工系離れと、大学の問題点について指摘していました。大学人の間では、この危機感は十年以上も前から深刻で、対策については多くの議論がありましたが、有効な策も無いまま今に至りました。大学の努力不足もさることながら、研究費、研究人員、企業の協力、税制等、文部省のみならず社会的、政治的な、研究者や大学はどうにもならない問題を含みます。

基礎研究の問題点は一般の方々にも良く認識されていると思われますが、理工系学部の重大な問題がもう一つあります。戦後、日本

研究しておられるのが印象に残りました。しかし実を言えば、私は教育方法がそれほど深刻な問題とは感じていませんでした。京大を定年退官し、私学に入つて初めてその意味が分かった気がします。大衆化大学では学生が授業を良く理解できないと言われます。日本は先端的技術のみならず中堅的な部分にも大きな危機が予見されることがあります。

期末試験では一部の学生を除きそこそこの点数を取る。十分良い点数を取る学生もいる。しかし、それは演習問題に似た問題の場合であり、問題を少し変えると半数以上が不合格になる。知つている問題しか解答できない。これは、定型的問題の解答を暗記するよう訓練された受験勉強のせいだと、ある先生は言います。丸暗記するのが勉強だと考える学生が多い。それでも卒業研究に入ると少しは考えるようになるのが、せめても3年生から。時既に遅く生半可な理解のままで卒業することになります。

新制度ではこの現象は緩和されるでしょうが、考えることを忘れた学生に考えることを教える方法を考える必要があります。大学の仕事は研究と教育ですが、教員の多くは専門の研究には極めて熱心、教育には不熱心です。教育方法のまでもありませんが、高度成長の時代のように、今あるものを改良して少し便利にすれば売れた時代は過去り、これからは実用的開発にも独創性が要求されます。日本語るのは、自分の教育法のままであります。しかし、教員が

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164

に食べる手段の無い日本の社会も崩壊するでしょう。

大学設置基準が改訂され従来の教養／専門課程の区別を無くしたのは大学の危機の認識が高まつた平成3年でした。大学の自主的な教育が可能なように、規制も若干緩和されました。教養／専門課程を区別する従来の大学では、専門の学問技術を勉強したいとの意欲に燃えて入学した学生は、1年生で教養科目の講義ばかり聽かされ折角の意欲を失い、また高校時代の受験勉強から開放された自由を謳歌してレジャーランドと呼ばれることになります。技術の面白さに目覚めるのは専門課程に入った3年生から。時既に遅く生半可な次号で更に詳細に分析してみたいと思います。

大学の動き

名誉教授称号授与式

一、平成5年6月10日AM9時50分から名譽教授称号授与式が京大総長室において挙行され授与された。板谷良平（工学部）

二、平成6年4月6日AM10時30分から名譽教授称号授与式が京大会館において挙行された。称号を授与された方で洛友会関係者は次の2名である。

卯本重郎（工学部）
岡田隆夫（工学部）

会員動向

一、勳二等旭日重光章 受賞
近藤文治(京大名誉教授18卒)

平成6年1月1日、電気工学第
二教室講師より同、無線通信工学
講座助教授に昇任。

(昭和51年電気工学第2学科卒)

黒橋禎夫

政府は平成6年4月29日付で
春の叙勲受章者を発表した。
5月2日皇居にて勲記・勳章
の伝達式、統いて挙謁の榮を
賜わった。

二、電気学会 名誉会員に

大嶋幸一(元日新電機副社長
19卒)

5月26日電気学会第82回通常
総会において表彰された。

三、電気学会 新副会長に
伊藤俊一(関西電力取締役
34卒)

5月26日電気学会第82回通常
総会で役員改選があり新副会
長4氏のなかに選ばれた。

電気系教室だより

次のような異動がありました。

教官の異動

佐藤亨

平成6年2月1日、電気工学第
二教室、有線通信工学講座助手に
採用。(長尾研)
(平成元年電気工学第2学科卒)

平成6年4月1日、附属イオン
工学実験施設、クラスメイトイオン
工学領域助手に採用。

京大一阪大電気教室
スポーツ大会

平成6年4月1日、電子工学科卒
室助手を退任し、京都産業大学工
学部教授に就任。

竹内 勉

平成6年4月1日、電子工学科卒
(昭和59年電子工学科卒)

平成6年4月1日、電子工学科卒
(昭和51年電子工学科卒)

平成6年4月1日、電子工学科卒
(昭和51年電子工学科卒)

平成6年4月1日、電子工学科卒
(昭和51年電子工学科卒)



総会報告

平成6年度 洛友会総会

洛友会総会

平成6年度総会は、5月29日
(日)午後4時10分よりホテル京阪
京都において、64名参集のもとに
行われた。

今年の総会は関西支部と合同で
開催し支部総会後行われた。

恒例により議長兼司会は近藤常
任幹事で始まり、初めに大谷会長
の挨拶をいたしました。「本日の総
会には昭和9年卒業の仁田工吉氏、
西川豊藏氏の大先輩から平成5年
卒業の方まで多数ご参加をいただ
き、また名古屋から大野彰(25卒)
中部支部長のご参席を賜りました。

度事業報告、平成6年度事業計画、

部長に本年一年間よろしくお願ひ

申し上げます」と開会挨拶をいた
だいた。

統いて同常任幹事より平成5年
度事業報告、平成6年度事業計画、

矢木原事務局長より平成5年度收
支決算、平成6年度収支予算案の
説明があり、次の議事で役員変更
の件が提案された。各案件を審議
の結果それぞれ原案通り可決され
た。なお平成5年度決算、平成6
年度予算については別表、ご参照
ください。

引続きて佐々木教授から京都大
学工学部大学院重点化構想に伴う
電気系教室の構想について説明が
ありました。また電気総合会館に
関西電力さんのご好意で空調整備
が入り勉強しやすくなつた。次に
この春の卒業生の進学、就職状況
についても報告があつた。(詳細
は会報4月号4頁参照ください。)



平成5年度名簿広告募集状況 (単位 円)

支部名	件数	総額	本部納入額	支部収入額
東	京	4,940,000	1,976,000	2,964,000
関	西	2,340,000	1,020,000	1,320,000
中	国	2,050,000	875,000	1,175,000
四	九	550,000	125,000	425,000
九	中	300,000	0	300,000
北	北	0	0	0
計	168	10,180,000	3,996,000	6,184,000
平成3年度	180	11,080,000	4,366,000	6,714,000

平成5年度収支決算

平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	備考
会費(学部) (講習所)	9,900,000 360,000	10,059,000 369,000	
預金利子	350,000	215,279	
広告掲載料	4,500,000	4,126,000	名簿163社 3,996,000円
雑収入	10,000	0	
収入小計	15,120,000	14,769,279	
前年度繰越金	10,847,823	10,847,823	
合計	25,967,823	25,617,102	

平成6年度収支予算

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	5年度決算額	備考
会費(学部) (講習所)	9,900,000 330,000	10,059,000 369,000	
預金利子	250,000	215,279	
広告掲載料	130,000	4,126,000	平成6年度 新年挨拶
雑収入	10,000	0	
収入小計	10,620,000	14,769,279	
前年度繰越金	11,466,499	10,847,823	
合計	22,086,499	25,617,102	

支出の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	備考
名簿編集費	200,000	0	
電算機処理費	750,000	477,088	
印刷費	5,300,000	5,567,150	
発送費	1,200,000	1,378,354	
会報編集費	0	0	
印刷費	1,100,000	1,101,843	毎回5,500部 年4回印刷
発送費	1,700,000	1,634,628	
備品費	0	0	
通信費	200,000	122,085	
会員原簿管理費	900,000	698,449	計算機処理費
会合費	400,000	347,630	役員会費 (含旅費)
総会費	300,000	300,000	
集会金	200,000	193,095	振込手数料等
消耗費	400,000	545,095	
旅費	350,000	330,520	支部総会 出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	0	0	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雜費	10,000	4,666	
予備費	660,000	0	
支出小計	15,120,000	14,150,603	
次年度繰越金	10,847,823	11,466,499	
合計	25,967,823	25,617,102	

支出の部

(単位 円)

科目	予算額	5年度決算額	備考
名簿編集費	0	0	
電算機処理費	0	477,088	
印刷費	0	5,567,150	
発送費	0	1,378,354	
会報編集費	0	0	
印刷費	1,200,000	1,101,843	毎回5,500部 年4回印刷
発送費	2,100,000	1,634,628	
備品費	0	0	
通信費	170,000	122,085	
会員原簿管理費	600,000	698,449	計算機処理費
会合費	350,000	347,630	役員会費 (含旅費)
総会費	300,000	300,000	
集会金	200,000	193,095	振込手数料等
消耗費	400,000	545,095	
旅費	350,000	330,520	支部総会 出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	3,489,024	0	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雜費	0	4,666	
予備費	10,976	0	
支出小計	10,620,000	14,150,603	
次年度繰越金	11,466,499	11,466,499	
合計	22,086,499	25,617,102	

預金及び現金

平成6年3月31日現在

普通預金	480,012	郵便振替	624,290
定期預金	10,000,000	現金	361,956
当座預金	241		

合計 11,466,499

平成6年5月20日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

教室幹事 木村磐根

平成6年度支部交付金

(単位 円)

支部名	交付金額	支部名	交付金額
北海道	6,543	関西	1,145,028
東北	16,059	中國	462,897
東京	1,362,895	四国	190,273
中部	122,526	九州	153,658
北陸	29,145	計	3,489,024

会計幹事	総務幹事	副支部長	支部長	記
昭49	昭54	昭38	昭46	昭27
昭26	昭25			

尾村隆幸	馬淵恭樹	和田治	荒木晴市	寿十藤島	木村陸朗	憲昭啓	新江
(新任)	(退任)	(新任)	(退任)	(新任)	(新任)	(退任)	

関西支部役員改選通知

平成6年度関西支部総会において左記の通り役員の改選がありましたので通知致します。
 右記以外の役員(顧問、会長、副会長、幹事及び常任幹事)は変りません。

5月29日、本部総会において左記のとおり退任(退)及び新任(新)が承認されました。

幹事	副会長	記
昭31	昭30	昭28
昭30	昭30	卯本重郎(退・教室)
佐々木昭夫(新教室)	岡田隆夫(退常任幹事)	佐々木昭夫(退教室)
木村磐根(新常任幹事)	小倉久直(新・教室)	木村磐根(新常任幹事)
荒木光彦(新・教室)	佐々木昭夫(退教室)	荒木光彦(新教室)

洛友会役員変更通知

東京支部役員改選通知

一、広島アジア競技大会施設見聞記 支部総会を巡つて

会長 大谷泰之

平成6年度東京支部総会において左記の通り役員の改選がありましたので通知致します。

記

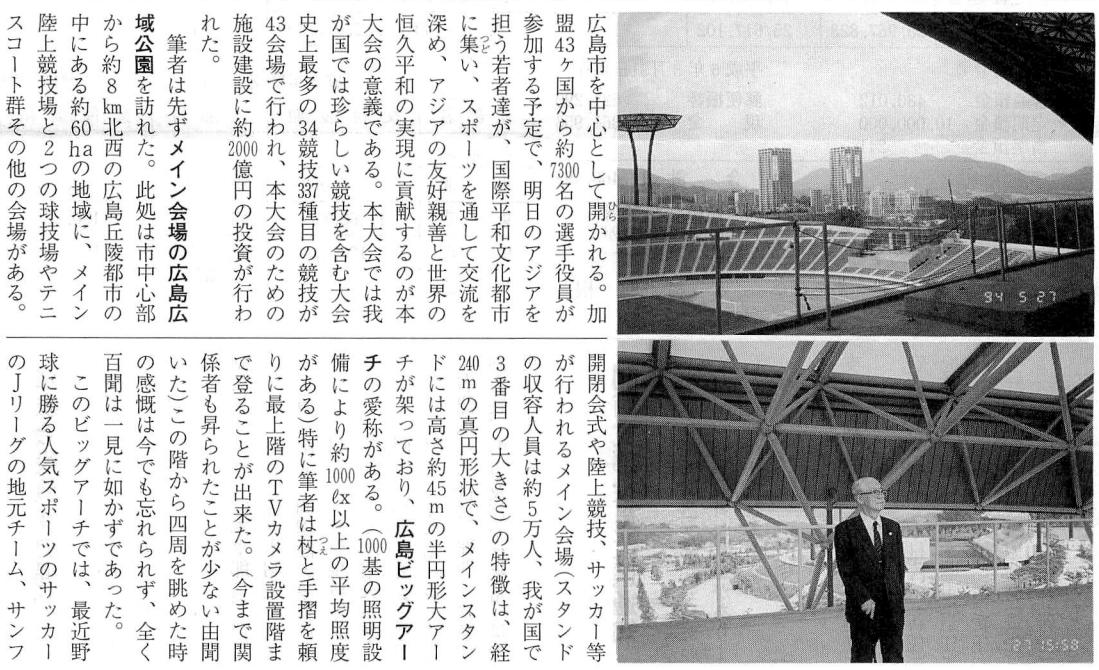
支 部 長	昭 28	武藤良介(退任)
副 支 部 長	昭 29	伊藤利朗(新任)
総 務 幹 事	昭 49	嶋谷吉治(退任)
会 計 幹 事	昭 51	横川文彦(新任)
		辻本雅彦(新任)

中部支部役員改選通知

平成6年度中部支部総会において左記の通り役員の改選がありましたので通知致します。

記

顧 問	大 13	本多静雄(留任)
支 部 長	昭 25	大野彰(留任)
副 支 部 長	昭 20	伊藤定昌(留任)
総 務 幹 事	昭 26	遠藤茂(新任)
会 計 幹 事	昭 28	新前原恒之(留任)
		辻本雅彦(新任)



本号が会員の皆様に届く頃には、梅雨も順調に終りかけ、長期不況も若干明るさが見え初めていることと思われる。

会員の皆様も明かるい初夏を迎えられて益々ご健勝にお過しのこととお喜び申し上げる。また会員、特に本部および各支部役員の皆様のご協力ご支援を深謝申し上げる。

さて本年の総会は5月27日の中国支部を皮切りに、約半ヶ月の間に関西と本部、九州、東京、四国、中部の各支部総会が開かれた。

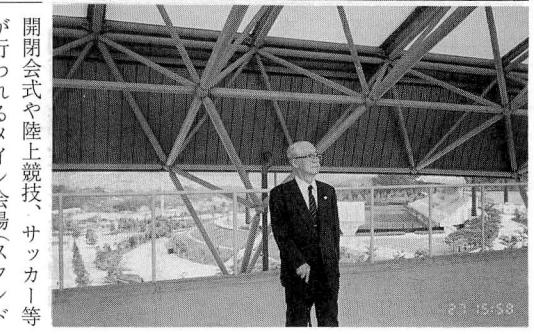
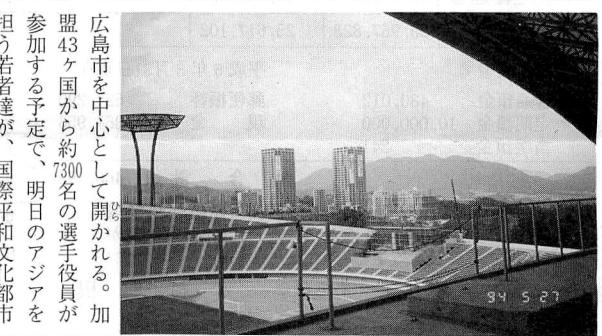
筆者は体調の加減でその内、広

島、京都、東京、名古屋の各総会に出席し、残りの博多、高松、更に7月2日仙台の東北支部総会には副会長の近藤文治先生に出席して貰った。

記

中国支部総会が開かれた5月27日広島駅まで出迎えて貰った上田博之君57卒、中国電力から前記大会組織委員会の施設課主任技師として出向中の案内で、メインの陸上競技場はじめ各会場施設を短時間に一巡した。

今回の第12回アジア競技大会はオリンピックの中間年の4年毎に開かれ、我が国では昭和33年に東京で開かれた第3回大会に次いで今回は2度目で、来る10月2日(日)から16日(日)までの15日間、



広島市を中心として開かれる。加盟43ヶ国から約7300名の選手役員が参加する予定で、明日のアジアを担う若者達が、国際平和文化都市に集い、スポーツを通して交流を行う。大会の意義である。本大会では我が国では珍らしい競技を含む大会史上最多の34競技337種目の競技が43会場で行われ、本大会のための施設建設に約2000億円の投資が行われた。

筆者は先ずメイン会場の広島広域公園を訪れた。此処は市中心部から約8km北西の広島丘陵都市の中にある約60haの地域に、メイン陸上競技場と2つの球技場やテニスコート群その他の会場がある。

スコート群その他の会場がある。このビッグアーチでは、最近野球に勝る人気スポーツのサッカーボールリーグの地元チーム、サンフ

ドリームの照明設備により約1000lx以上の平均照度がある。特に筆者は杖と手摺を頼りに最上階のTVカメラ設置階まで登ることが出来た。(今まで関係者も昇られたことが少ない由来いた)この階から四周を眺めた時の感概は今でも忘れられず、全く百聞は一見に如かずであった。

このビッグアーチでは、最近野球に勝る人気スポーツのサッカーボールリーグの地元チーム、サンフ



レッヂエ広島(先般第一ステージで初優勝した)のゲームがある時は、良いチケットの入手も困難と聞いた。サッカーと言えばTV中継でもプロ野球に対抗する人気番組もあるが、老筆者にはやはりプロ野球も気になり勝ちである。しかし各チームがトップを競り合つてこそ面白いもので、この点夏の甲子園の高校野球のドラマと感動を今から期待している。

大会見聞の話は続くが、合計16面のテニスコートの中特にセンターコートでは、照明塔の日影がプレーの支障にならぬ様に平常はスタンドの後部に収容可能な昇降式の照明塔が設備されており、この方式の照明塔は他に例がない様である。

大会見聞の話は続くが、合計16面のテニスコートの中特にセンターコートでは、照明塔の日影がプレーの支障にならぬ様に平常はスタンドの後部に収容可能な昇降式の照明塔が設備されており、この方式の照明塔は他に例がない様である。

大会見聞の話は続くが、合計16面のテニスコートの中特にセンターコートでは、照明塔の日影がプレーの支障にならぬ様に平常はスタンドの後部に収容可能な昇降式の照明塔が設備されており、この方式の照明塔は他に例がない様である。

大会見聞の話は続くが、合計16面のテニスコートの中特にセンターコートでは、照明塔の日影がプレーの支障にならぬ様に平常はスタンドの後部に収容可能な昇降式の照明塔が設備されており、この方式の照明塔は他に例がない様である。

新交通システム(アストラムライン)が新設され、これは広島中心部(一部地下)から広域公園まで18kmを37分で進行する6輪編成ワシマン式新鉄道システムである。また大型ジエット機の乗入れ可能な新広島空港や山陽自動車道も開通している由である。

以上の如く大会開催を契機として広島市付近の関連公共事業の総経費は1兆5千億円に登りその2倍の経済波及効果が期待されるとのことであった。

何れにしても松谷健一郎(昭12月卒)中國電力会長を中心とする中国電力その他各界が一致して大会の成功に向って尽力しておられる様子を伺い、筆者も及ばずながら大会のPRと支援に協力して、いささか詳細な見聞録を記述した次第である。

尚この外に県立総合体育館(アリーナ)には天井中央部から吊り下げられている四面式高画質の大型映像装置が設置されている。

その他関連施設として見学した選手村は(会期中は民間から借上げ)会期後改裝して一般に分譲する方式31階建2棟の外、16棟の住宅群からなり、大会中は100戸約7000人の宿泊可能な選手村と多くの付帯施設がある。

大会場への輸送施設として広島新交通システム(アストラムライン)が新設され、これは広島中心部(一部地下)から広域公園まで18kmを37分で進行する6輪編成ワシマン式新鉄道システムである。また大型ジエット機の乗入れ可能な新広島空港や山陽自動車道も開通している由である。

以上の如く大会開催を契機として広島市付近の関連公共事業の総経費は1兆5千億円に登りその2倍の経済波及効果が期待されるとのことであった。

例年通り完備した支部会員名簿その他の資料の配布があり、128名中37名(昭8~平4)の出席を得て総会が行われた。記念撮影の後、最上階のレストランでテーブル形式での懇親会、次いで懇談会が行われた。席上支部長の松谷健一郎(昭27卒)へ交替された。また毎年の最大行事である秋の家族旅行会関西支部では昨年から役員の任期が1年になったため、支部長が藤島啓氏(昭25卒)から寿栄松憲昭氏(昭26卒)副支部長は木村陸朗氏(昭27卒)へ交替された。また毎年の最大行事である秋の家族旅行会は10月30日(日)関西国際空港と大阪のアジア貿易センターの見学予定とのことであった。中には昭9卒のクラス会の方からこれに便乗してクラス会を催したいとの話も出た。

次いで本部の総会が近藤副会長の司会で行われ、別稿の如く定例議題の審議承認があつた。特に名簿の広告募集は各支部のご協力により、不況時にもかかわらず大体目標値が達成されたことに対しして

二氏(昭16・3卒四国電力元社長、現相談役)森井清二氏(昭24卒関西電力元社長、現副会長)それに近藤耕三氏(昭28卒現四国電力社長)等と時々洛友電力OB会をやつておられる話を伺つた。

最も洛友会員で各電力会社やメーカーの各職域毎の会合が随分開かれていることを聞くことが多い。なおまた毎回総会に出席される潮見公安氏(昭8卒85才)から今年お孫さんが京大電気系学科へ入学されたことを伺い心からお喜びしたもの印象に残つている。

(1)中国支部総会は5月27日広島全日空ホテルで(筆者が大会会場見学を終え中国電力池内浩(副社長)が新設され、これは広島中心部(一部地下)から広域公園まで18kmを37分で進行する6輪編成ワシマン式新鉄道システムである。また大型ジエット機の乗入れ可能な新広島空港や山陽自動車道も開通している由である。

例年通り完備した支部会員名簿その他の資料の配布があり、128名中37名(昭8~平4)の出席を得て総会が行われた。記念撮影の後、最上階のレストランでテーブル形式での懇親会、次いで懇談会が行われた。席上支部長の松谷健一郎(昭27卒)へ交替された。また毎年の最大行事である秋の家族旅行会関西支部では昨年から役員の任期が1年になったため、支部長が藤島啓氏(昭25卒)から寿栄松憲昭氏(昭26卒)副支部長は木村陸朗氏(昭27卒)へ交替された。また毎年の最大行事である秋の家族旅行会は10月30日(日)関西国際空港と大阪のアジア貿易センターの見学予定とのことであった。中には昭9卒のクラス会の方からこれに便乗してクラス会を催したいとの話も出た。

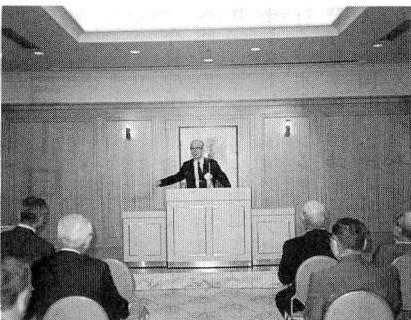
次いで本部の総会が近藤副会長の司会で行われ、別稿の如く定例議題の審議承認があつた。特に名簿の広告募集は各支部のご協力により、不況時にもかかわらず大体目標値が達成されたことに対しして

深謝している。なお会費納入率(現在約55%)の向上策も本会の基本問題であることも指摘された。

次に懇親会の席上、大嶋幸一副会長(昭19卒)から理工系学生のメーカー離れ問題に就いて、詳細な配布資料を基に提言された。21世紀を担う若者の理工系離れ問題は現今の大問題であり、文部省の中等教育制度、大学の研究教育制度と環境、産業社会の処遇対応等の多くの課題がある。洛友会総会での大嶋副会長の提言はいささか固い話題かも知れないが時宜を得た問題であり、本問題に関しても会員の皆様からの会報への寄稿を望みたいものである。またご承知の通り本年京都では平安建都1200年記念行事の多くのイベントが行われているがこれに関するパンフレットも大嶋氏から配布された。

(3)東京支部総会は6月4日例年通り目黒八芳園で約80名(昭9~平4)の出席を得て開かれ、支部長が武藤良介氏(昭28卒)から近藤貞吉氏(昭28卒)へ交替された外、例年の如く見学会、旅行会、趣味の会、グループ活動、米寿喜寿祝の贈呈等盛沢山の行事の話があつた。尚名簿広告募集に就いては配布されたリストにより説明があり関係役員の方々のご努力の跡に只々深謝の外はなかつた。

ゴルフの会も毎回小金井CCの



平成6年度の東京支部総会は、6月4日(土)に東京日黒八芳園にて開催されました。昭和9年卒業の大先輩から本年卒業の若手会員まで総勢73名の会員が出席いたしました。

支部総会は、武藤支部長の挨拶で始まり、平成5年度の行事報告、決算報告を行ない承認されました。引き続き平成6年度の新役員を選出し、近藤新支部長の挨拶に続い、平成6年度の行事計画と予算が審議され了承されました。今年度の行事計画では、従来から活動している。囲碁、将棋、ゴルフ、詠曲、テニスの各趣味の会に加え、休会していた麻雀会が復活し、昭35~39年度のグループ会が発足することが報告されました。

次に、平成6年度に米寿、喜寿を迎える22名(米寿2名、喜寿20名)のお祝いを行ないました。

総会後の懇親会は近藤新支部長の挨拶で始まり、今年度喜寿を迎える。永安弘氏(昭16・3卒)

より、ビタミンC取得による健康維持のコツ等についてお話を伺いました。

大谷会長の乾杯で懇談に入りました。参加者間で話しが弾みました。

名残りは尽きませんでしたが、最後は再び大谷会長に挨拶を頂き、来年の再会を約して散会いたしました。

写真・大谷会長の挨拶と近藤新支部長より米寿、喜寿のお祝いの目録贈呈

(昭50年卒総務幹事横川文彦記)



各支部行事(予告)

①第62回ゴルフ競技会

期 日 10月2日(日) 10組

場 所 武庫之台ゴルフ場

会 費 約2万3千円(当日)

連絡先 関西電力森まで

TEL 06-441-8821

②家族見学会

恒例の家族見学会は9月4日開港予定の関西国際空港と4月に大阪南港にオープンした国際卸売マート、アジア太平洋トレードセンター(ATC)を計画中です。オープン後一ヶ月半で来場者が200万人を超えた。特にアミューズメント施設オズなどが若者に人気なところです。決定次第ご案内状をご送付しますのでご期待ください。

予定日 10月30日(日)

連絡先幹事日本電池尾村まで

TEL 075-316-3064

講習所卒業の皆さんへ

「り博三重'94」を訪れます。り博三重'94を訪れます。日時 9月10日(土) 8時30分

集合 名鉄メルサビル西口

会費 大人7千円、児童3千円

日時 11月12日(土) 3組
場所 名古屋グリーンCC
会費 約2万3千円(当日)
以上幹事 前原まで
TEL 052-263-5141

り博三重'94を訪れます。

②懇親ゴルフコンペ

日時 11月12日(土) 3組

場所 名古屋グリーンCC

会費 約2万3千円(当日)

以上幹事 前原まで

TEL 052-263-5141

あじさいの花びらが色鮮やかな季節となりました。会員各位には其の後いかがお過ごしでしょうか。

本年は講習所が大正3年1月に創立されてから80周年を迎えますことになりました。皆様の思いでの多い京都で創立80周年記念と洛友デルタ会第10回全国大会の開催を幹事会にて企画致しました。講習所創立時から廃校になるまで、卒業生一同が一方ならぬお世話をなされた故関野弥三先生の法要を無学寺にて行いますので、皆様のご出席をお待ちしています。

記

一、日 時 平成6年9月4日(日)午後0時30分

一、集合場所 京都市中京区河原町竹屋町東入ル

一、故関野弥三先生法要 於 無学寺(午後1時)

一、創立80周年記念式

一、洛友デルタ会全国大会 午後2時30分

一、懇親会 午後4時

一、会 費 一泊朝食付

ご家族同伴の場合 一室提供

金一〇、〇〇〇円

金一五、〇〇〇円×人数

石長 松菊園

平成6年8月5日まで

返信ハガキ、詳細案内書、振込用紙は後日お届け致します。

神戸俊夫(講昭14卒)

京都市左京区修学院水上田町八一

〇七五-71-11七八七五

二、中部支部行事

①家族同伴「秋の例会」

昨年61回目の遷宮がとりおこ

なわれた伊勢神宮参拝と朝熊

山麓で開催されている「まつ

ヨーロッパツアリー(Ⅱ)

吉田芳正（昭24卒）

今日の予定はミュンヘンから西へ昨日のロマンチック街道まで戻り、ロマンチック街道を南下しオーストリア国境フュッセンまで行く。ホーヘンシュバンガウ城に登り見学後、国境沿いに西へ、スイスに入国し(?)オーストリアを通り再びイス、そしてリヒテンシユタイン・ファードーツを経てスイスに入りバーレン湖、チューリツヒ湖の南岸の道路(長野県上高地への道を想像してもらう)を通ってチューリツヒへ、街へは入らず高速道路をベルンの方向へ、ベルンには入らず高速道路をトゥーレン湖を右に見てインターラーケンへユングフラウは目前、さらに谷間をぬつてグリンデルバルトへ。アイガーは目前。

れば日本の山は60年程樹木を育て全部刈り取つて後植林する。経済的利点は多いがコストがかかる。こちらの山はすべて自然林である。自然林の中から役に立つ木に注目して役に立つ木をあちこちで切り出す。そして、もつとも優秀な木た木が60年後には再生する。そう一本だけを残しておく。すると自然の作用(リスが種を運んでくれる等)で自然林のまま、切り出した木も60年後には再生する。そういう研究が行われて実用化されてしまう。そういえば切り出された切れ株が残っていた。細立ち枯れになつた木も目撃した。城には歴史に残る場面の彫像が壁面にあつた。昔のまま残っているもの、後に修復されたもの、中世のものである。城から森越しにノイシュュバーンシュタイン城が白く映える。天を突く三角の先端が美しい。その向うは緑の牧場を隔てて大きな川が横たわっている。その向うは低い丘陵地帯が横に広く広がつていて。今、我行手西の方を見ている。

である。ビザを見るとイギリス、ドイツ、リヒテンシュタインの判断が押してある。リヒテンシュタインのは、こちらが頼んで押してもらつたもの。他の国では团体さ
ん扱い。

ること約半時間やつと宿泊地に着く。牧場、烟、農家、山間の村ことういう感じは割合日本に近いのかあまり記憶に残っていない。窓際の鉢植の花、ベラニウム、洗濯物（ヨーロッパで、こういうものを見るとは思つていなかつた何か微笑ましい感じである。普通は山は横から見るが迫つてくる山並を縦に見た時の圧迫感というか立体感はすごい（メンヒをインター

る。トンネルの中にアイガ一北壁、アイスゼーなる途中下車駅がある。5分間の停車時間に降りて窓からアイガ一北壁や氷の海を見てまた電車に乗る。終点は山中に造られた立派な駅である。南方斜面の裾まで流れ下りている大氷河を目のあたり、はるかに見下すことができる。^{いそ}忙いで歩いて酸素不足となり頭痛にくたばる人がいる。妻もその一人、椅子に腰掛けて救急処置をしてもらえないかと小生に頼む。慌ててドイツ文字をたどつて尋ね歩く。あっち當りこっち當りしている中に大したものでないよ

湖を右に見てインターからケンへ
ユングフラウは目前、さらに谷間
をぬってグリンデルバルトへ。ア
イガーは目前。

いう研究が行われて実用化され
いる。そういえば切り出された切
株が残っていた。細い立ち枯れにか
なった木も目撃した。城には歴史
に残る場面の彫像が壁面にあつた
昔のまま残っているもの、後に修
復されたもの、中世のものであろ
うか。城から森越しにノイシユバ

端に達する頃対岸にチューリッヒを臨む。街というよりも森の中に家が点在するよう見える。高速道路をひたすら突つ走っている。白地に青のドイツ文字が目に入る。やっと読めたと思うと通り過ぎていく。道路をゲート式に横断していく。ベルンとかチューリッヒとかの文字が上に並んでいる。分岐点でチューリッヒ行きの道路を右に見て左の方の道路を選んだ。

る。上半分は白、下半分は緑、右の山はメンヒ、氷の先端が高く稜線が三角錐に見える。前の山は大きな霜柱である。アイガー、壁壁、聳えている。下半分の緑は虎刈模様、牧場が上方まで開けている。春は下、夏は上へと草を求めて牛を誘導する。その方策はペテランの仕事であるとか。あちこちに牧畜用建物が点在する。人家は麓の方か。

つて与える。妻の小休止で暇ができたので階段を一番上まで上る。ドアを開けて外に出る。外気は冷たい。稜線に沿つて、まばらに上る人、降りてくる人がある。一に向うに人が群がつている。とにかく稜線の向う側を見てこようと上っていく。遙か向うに暗く森が見える。これで良しと雪一握りを掴んで引き返す。ドイツのフランス・スイス国境近くにはブラック、

トゥーン湖を右に見て前方に高い山並を見る。いよいよアルプスのふところに入る。インターラーケンの名を見たとき、もう来たなという感じである。ところがここからグリンデルバルトまで谷間の道を軽業師のように通り抜けて走

翌日登山電車に乗り、近くで見
る牧場には春の草花が咲き乱れて
いる。クライン、シャイニデク(二
三三〇)から歯車式の電車に乗り
継ぐ。始めは稜線上を走るが途中
から終点ユンケフラウノツホ(三
四五四)まではトンネルの中であ

「オレスト」がある。
氷の先から真直伸びる稜線、氷河、雪と垂直な岩の山肌、それに連なる緑の斜面、牧草地、草花の控え目な春麗の人の営み、湖の深緑、迫る山並、一方向から見た写真のユングフラウとちがつて氷

ること約半時間やつと宿泊地に着く。牧場、畑、農家、山間の村こまういう感じは割合日本に近いのかあまり記憶に残っていない。窓際の鉢植の花、ベラニウム、洗濯物(ヨーロッパで、こういうものを縦に見た時の圧迫感というか立体感はすごい(メンヒをインター ラーケンから見た姿)見るとは思っていなかつた)何か微笑ほほえましい感じである。普通は山は横から見るが迫つてくる山並を見るのは横から見るが迫つてくる山並を縱に見た時の圧迫感というか立体感はすごい(メンヒをインター ラーケンから見た姿)

ホテルは一口に言って山の上のホテルで質素である。角の大きな部屋があてがわれた。ベランダに出ると山の衝立が目前に立つてゐる。上半分は白、下半分は緑、右の山はメンヒ、氷の先端が高く稜線が三角錐に見える。前の山は大きな霜柱である。アイガー、壁壁壁、聳そびえている。下半分の緑は虎刈模様、牧場が上方まで開けている。春は下、夏は上へと草を求めて牛を誘導する。その方策はペテランの仕事であるとか。あちこちに牧畜用建物が点在する。人家は麓の方か。

翌日登山電車に乗る。近くで見る牧場には春の草花が咲き乱れている。クライネ、シャイデク(二三三〇)から歯車式の電車に乗り継ぐ。始めは稜線上を走るが途中から終点ユングフラウノツホ(三四四五)まではトンネルの中であ

る。トンネルの中にアイガード壁、アイスゼーなる途中下車駅がある。5分間の停車時間に降りて窓からアイガード壁や氷の海を見てまた電車に乗る。終点は山中に造られた立派な駅である。南方方向の裾まで流れ下りている大氷河を目のあたり、はるかに見下すことができる。忙いで歩いて酸素不足となり頭痛にくたばる人がいる。妻もその一人、椅子に腰掛けで救急処置をしてもらえないかと小学生に頼む。慌ててドイツ文字をたどって尋ね歩く。あつち当たりこっち当たりしている中に大したものでないよと聞く。ミネラルウォーターを買って与える。妻の小休止で暇ができたので階段を一番上まで上る。ドアを開けて外に出る。外気は冷たい。稜線に沿つて、まばらに上る人、降りてくる人がある。一番向うに人が群がつている。とにかく稜線の向う側を見てこよう上っていく。遙か向うに暗く森が見える。これで良しと雪を握りを掴んで引き返す。ドイツのフランス・スイス国境近くにはブラック、フォレストがある。

の先から麓の湖までの変化、そして違った角度から見た立体、造形は色彩の変化とあわせて絵には書き得ない深い大論文の構成を思われる。

グリンデルバートからインター

ラーケンに戻り、そして高速道路に入りジュネーブに向う。ベルンの近くを通って住宅地帯のような所を抜けていく。ルソーが住んでいたという話を聞く。ジュネーブ湖を左に見て暫く行くとジュネーブに着く。ドイツ語圏からフランス語圏に入った。これからは全くツンボである。ジュネーブ湖の水は南に流れ最終的にマルセイユ近くで地中海に入る。明日はフランス新幹線(TGV)に乗ってパリに向うが駅はスイスから入つて駅の中ではフランス国内に入り、ジュネーブ(フランス)発パリ行きに乗る。列車案内表示はフランス語、ドイツ語、ラテン語でなされていいる。フランス語を解読してみると、ラテン語でなされていても面白そうだ。

夕方ホテルを出てジュネーブ湖畔まで散歩する。男女の刺繡的なポーズが目につく。湖は大きく湖上の傾斜して水を吹き出している。大噴水が美しい。日本の夜店のようなテントを張った店もある。盆踊りの時に使う舞台のようなものもある。中を覗くと娛樂用の舞台らしい。屑籠に注意書がある。最

後にメルシ。その感覚が楽しい。

我々が座っている長椅子の隣には

之町、赤い中橋、高山陣屋等を観光。国分寺 諸国國分寺中現存する四

ヶ寺の一つとして有名である。正

後にメルシ。その後段の観光に入る。

交って思わずカメラのシャッター

を切りたくなる風景である。中橋

を渡ると高山陣屋に出る。

ローソクの炎に当る所に人物像を配した四隅の柱をもつゴシック様式の記念碑の前で写真をとりホテルに帰える。

(続きます、次号をお楽しみに)

共振会(昭16・3卒)

春季高山地区旅行会報告

平成4年11月4・5日信州旅行の席で次回は南紀か高山地区と決まり平成5年6月頃から関東・関

西幹事検討の結果、平成6年4月20・21日高山地区旅行が決定した。

4月20日午後1時「ひだホテルプラザ」のロビーに集合。今回の参加者は会員18名夫人9名と特別参加者として会員未亡人1名、会員の娘様1名、計29名。

ロビーにて担当幹事より今後の観光計画の説明、ホテル側から宴会場食会場等の説明があり、一先

づ各自部屋に引取り荷物を置いて前段の観光に出掛ける。20日午後

2時～5時徒步にて国分寺、上三

面の樹齢千二百年の天然記念物の大イチヨウが有名である。本堂は室町時代に建築された物で重要文化財。本堂の右手に江戸時代末期に再建された優美な三重塔がある。

高山の名工水間相模の作と言われる。国分寺を過ぎて宮川にかかる鍛治橋を渡ると宮川朝市の開かれる通りに出、更に東に行くと上三之町の通りに出る。

上三之町 ここは江戸時代の町並みがそのまま残つて色々な土産物店、食事処、喫茶店等が並んでいて此所を歩いていると我々の子供時代を思い出し何とも言えぬ郷愁に誘われる。途中飛騨民族考

古館に入る。

飛騨民族考古館 ここは御典医上

田玄泰の屋敷跡で屋敷内には吊天井、忍窓、隠し部屋、抜け穴など随所に特殊な仕掛けがあり、さらがら忍者屋敷である。ぶらぶらと上三之町を端まで行き右に曲ると、赤い中橋に出る。

赤い中橋 高山は標高573米の高所にあり大阪では桜は既に散つて、此所ではまだ桜が咲いていて、

翌21日7時から朝食。朝食後三

度お開きとなる。

21日午後3時前ホテルの前から観光バ

流を挟んで老柳のふさふさした青葉が垂れ下り、その間に桜が入り

交って思わずカメラのシャッターを切りたくなる風景である。中橋

を渡ると高山陣屋に出る。

前朝市に出る所である。高山陣屋は全国で只一つ残された陣屋の遺構である。城主金森氏が出羽の国に国替えとなり飛騨は幕府の直轄となるがその金森氏の向屋敷を陣屋として元禄5年(1692)から明治維新まで25代177年の間、郡代を置いて飛騨一円を支配した。こ

れで目を引くのは吟味所、御白州

で、御白州には荒ムシロが敷かれ、

その横に攻め道具等が置かれて

いる。又御蔵は年貢米を収納した所

で米俵が高く積まれている。高

山陣屋を見てホテルに戻り各自風

呂に入り6時から宴会。

全員で記念撮影。会長挨拶会計

報告欠席者の現況報告前回の旅行会以後に鬼籍に入られた田中氏、真砂野氏、神崎氏を偲び御冥福を祈つて黙祷。各人の現況報告。この一年半の間に大腸癌の手術、腎臓摘出等の大手術をされた方もおり、皆元気で出席され本当によかつたと心から御喜び申上げる次第。

続いて有志の謡曲、歌等が出て和氣あいあいの内に宴会を終り8時半お開きとなる。

翌21日7時から朝食。朝食後三

度お開きとなる。

21日午後3時前ホテルの前から観光バ

流を挟んで老柳のふさふさした青葉が垂れ下り、その間に桜が入り

はじめて通つて来て共に夜を過し

朝に帰つて行く所謂通ひ婚の風習

がこの地方でも残つていたのかと

面白く拝聴した。

統いて一点を中心に同心円状に

苗を植える車田、壁に車を並べて

ある富田家(運搬用具のコレクシ

ヨン）。続いて、吉真家（よしぞなけ）のこの家の、言い栗の自然に共
つた。この家の雪が残っていた。そのまま利用して遊

ヨン）。続いて、
吉真家 この家の柱はムカイ柱と
言い栗の自然に曲った大木の股を
そのまま利用している所等面白か
つた。この家の横には珍らしく残
雪が残っていた。

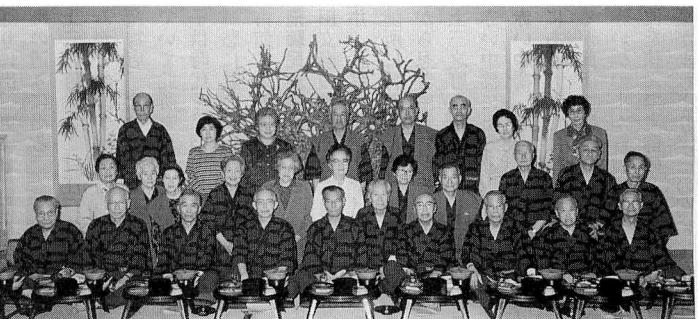
10時飛驒の里を後にして町中に向う。陣屋前広場の前で車を止め赤い中橋の前で記念写真を撮る。車中美人ガイド娘の説明で、ここでの「みたらし団子」は醤油だけ味付した独特の物であると聞かされ中橋を渡った所の団子屋で団子を買い、それを噛りながら陣屋前の朝市を冷かして歩くのも旅ならではの楽しい風景であった。

土産物を見たりして午後2時高山駅に向う。
写真は「ひだホテルプラザ」宴會場にて撮つたものである。
前列左から武田正三氏、森本芳夫氏、佐藤仁止氏、秋田清四郎氏、石井嵩氏、宮下一雄氏、橘勝氏、深海規氏、武田進氏、玉井寧氏、中列、秋田夫人、小林夫人、嘉田夫人、佐藤夫人、石井夫人、永安

武家文化中心ではなく町衆文化で
あつた。日下部家は幕府の御用金を
を取扱つた豪商で後に両替商を営
んでいる。ここはロツクフエラ
がいくら金を出しても買いたいと
言つた高山屈指の名家である。
我々は日下部民芸館を後にしてバ
スでホテルに帰館。12時半ホテル
でお別れ昼食会。ここで次回(平
成7年秋)の候補地、西伊豆を約
して解散。後はコグーで木んだり

台が並んでいた。何れも精巧華麗な美事な物である。屋台会館を後にして日下部民芸館に向う。
くさかべ
日下部民芸館　高「てこの持故は

は牛若と弁慶の五条大橋の立回り
打出の小槌を振りかざす大黒様、
抹茶を運ぶ小僧様等の実演があり、
その精巧さに驚嘆の目を見張る。
屋台会館　ここは高山秋祭りの11
台の屋台の内4台宛を年3回交代で
公開している。当日は仙人台、
鳳凰台、大八台、金鳳台の4台と
金箔を張った絢爛豪華な神輿の5



(俳句は秋田清四郎氏作)

次回10月号の巻頭言は寿栄松憲（すえまつ
昭氏（昭26卒）関西支部長にお願い
しております。

当月号の巻頭言は東京の池上文大副会長にお願いしました。早速書いていただき有難うございました。池上先生は教育者の立場から率直に述べていただき次号が楽しみです。この問題は大谷会長もふれておられ、会員の投稿をお待ちします。大嶋副会長も本部総会後の懇親会の壇上で出席者に話されました。また事務局として会報(平

30度を越える真夏日が続くと電力ヒーク！ 夏休みはアウトドアでそよ風の吹く木陰でバーべキュー、楽しくゆっくり静養したいものです。

7月は海開き、山開きではじまり、中旬には梅雨が明け京都の祇園祭、各地の花火大会といよいよ夏本番です。昨年は冷夏にたたられた、今年は雨不足で水がいい記です。気温が

会員の皆様、関係企業の皆様ご協

力の程よろしくお願ひ申し上げます。

(事務局長矢木原邦雄記)

A detailed line drawing of a flowering plant, likely a lily or similar, showing its stem, leaves, and a large, multi-petaled flower at the top.